

いりの まつばら
名勝・入野松原の再生 ～地域連携による取り組み～

四国森林管理局 四万十森林管理署
浮鞭森林事務所 森林官 林 美樹也
十和森林事務所 森林官 中村 正史

1 はじめに

当署が管理する「入野松原」は、高知県西南部の黒潮町にある幅約200m・延長2kmの細長い約36haの国有林です（写真1）。この国有林の太平洋側には約12haの町有林（通称「小松原」）が広がっています。これらの森林は古くから地域住民の生活に密接に関わり、町の中心部を守る重要な海岸林として親しまれてきました。また、周辺には県による土佐西南大規模公園事業によりキャンプ場や球場などが整備されています。入野浜で行われる「Tシャツアート展」や「裸足マラソン大会」には毎年多くの方が訪れています。



写真1 入野松原全景

しかし、近年は松くい虫による松枯れ等のさまざまな問題を抱え、かつての、白砂青松を取り巻く状況も大きく変わってしまいました。そこで入野松原を再生するため地域と連携して行っている取組を報告します。

2 入野松原について

入野松原の成立については、1580年頃が起源とされています。1707年の大地震による津波で松原は大きな被害を受け、その後近在住民によりクロマツを植栽して災害に備えたという記録が残っています。また、太平洋戦争末期に本土防衛のための軍用材としての伐採計画を時の営林署長が身命を賭して反対し、松原は失われることなく現在に至っています。その他、防風保安林をはじめ、潮害防備保安林、保健保安林、史跡名勝天然記念物、県立自然公園（普通地区）、土佐西南大規模公園地域、入野浜鳥獣保護区の系7つの法令制限を受け、大切に保存されています。しかし、昭和50年頃から点的に発生した松くい虫被害は、その後の数年間で爆発的に被害が拡大、このため樹齢100年以上の高齢級のマツの大半はこの時期に枯損したとされています。現在の入野松原は、マツを主体とした林分が35%程度しかなく広葉樹林へ遷移している状況です。

3 入野松原に関する活動

入野松原が広葉樹へ遷移しつつある中「名勝入野松原」を取り戻すための活動が様々な関係者により行われています。

平成18年には大方町（当時）が「入野松原再生計画」を作成し、松原を再生するための大きな方針を示しましたが、同年、同町は佐賀町と合併し、計画の実施主体が曖昧になってしまいました。そのような中、森林管理署では、再生計画に基づき、松くい虫防除事業や下刈り等の造林事業、地元からの要望により林内遊歩道にウッドチップ舗装などを実施しています。

その他、入野松原保存会による松林の清掃活動、また、平成25年度からは地元の佐賀林業研究会が森林管理署と「社会貢献の森」に関する協定を締結し、森林・山村多面的機能発揮交付金を活用して林内の雑灌木の伐採や遊歩道周辺の草刈りなどを実施しています。

4 「入野松原保全推進協議会」設立

入野松原に関する様々な活動が行われる中、森林管理署には国有林周辺の住民から、高木となったクスノキの枝が住宅や道路へ張り出していること、農地への日照の支障になっていることなどから枝おろしの要望が毎年のように寄せられています。また、ゴミの不法投棄や境界管理上の問題も継続して発生しており、それらの対応に苦慮していました。さらに、入野松原に関する活動も様々な関係者が個々に実施しており、まとまりがなく、問題が発生しても解決する場所がありませんでした。そこで、入野松原に関係する者（地域住民、森林組合、高知県、黒潮町、森林管理署等）が集まって、松原の保全・利活用について検討・討議するため「入野松原保全推進協議会」が設立されました。

5 入野松原に関する主な活動内容

- ①平成26年度 第一回入野松原保全推進協議会・設立（平成26年7月17日）
- ②平成26年度 第二回入野松原保全推進協議会（平成26年11月7日）
・関係団体による平成26年度実施報告と平成27年度事業計画の公表
・各団体や地域住民からの要望とその対応方法の検討
- ③入野松原周辺一斉清掃（平成26年11月16日）
- ④平成26年度 幡多「こうち山の日」活動事業（平成26年11月19日）
・ボランティアによるマツの植樹活動及び清掃活動
- ⑤入野松原保存推進協議会より要望書提出（平成26年12月25日）
- ⑥平成27年度 第一回入野松原保全推進協議会（平成27年6月29日）
・平成27年度の事業計画の公表及び活動報告
- ⑦境界沿いの老朽化したフェンスの撤去（写真2）及び木製杭設置（平成27年9月）
- ⑧署と町合同での小学生を招いたマツ植樹活動（平成27年度予定）

6 まとめ

入野松原に対するニーズが多様化する中、入野松原の再生に向けて、様々な関係者が関わる共通のプラットフォームとして「入野松原保全推進協議会」が設立されました。

森林管理署としては「地域のためにやるべき事はやる。地域にも必要なことは協力してもらう」という持ちつ持たれつの関係を構築して、入野松原再生へ向けて事業を計画的に実施していきます。



写真2 老朽化フェンス撤去後の様子